

78. ^{67}Ga -citrate による原発性肝癌の陽性描画の臨床的意義に関する研究 (第1報)

大阪市立大学 第三内科

黒木 哲夫 山下 健 金 腎一郎
朝井 均 門奈 大之 山本 祐夫
放射線科
越智 宏暢 山田 竜作 古川 隆
浜田 国雄 玉木 正男
第二外科
津田 勇平 木下 博明

〔目的〕 原発性肝癌における AFP 出現の有無は、その病理組織学的性状に左右されるといわれ、また本症の発生原因をめぐりオーストラリア抗原、或い中毒性因子の関与が問題にされている。 ^{67}Ga -citrate による原発性肝癌における腫瘍陽性描画の臨床的意義を検討するに際し、今回は AFP 及び Au 抗原、肝病理組織像と陽性描画の有無の関連性を検討した。

更に、抗癌剤局所動注治療による各検査成績の推移と腫瘍陽性描画能の変動についても報告する。

〔方法〕 血中 AFP 量は Single radial immunodiffusion 法及び R. I. A. 法で、Au 抗原は S-R. I. A. 法にて検出した。Scintiphotography は ^{67}Ga -citrate 2 mCi 静注後72時間目に施行した。

〔対象〕 肝生検、腹腔鏡、肝シンチフォト、肝動脈造影等により、原発性肝癌と診断しえた20例を対象とした

〔成績〕 ① 原発性肝癌 20 例中血中 Au 抗原は 7 例 (35%) に、AFP は S-R. I. D. 法にて 9 例 (45%) に、S-R. I. A. 法にて 18 例 (90%) に陽性を示した。Au 抗原陽性 7 例のうち AFP は 6 例に陽性で、一方 Au 抗原陰性 13 例のうちでは、12 例に AFP が陽性であった。② ^{67}Ga -citrate による肝シンチを施行しえた 7 例のうち、明らかな腫瘍陽性描画を示した症例は 4 例 (57%) であった。陽性描画 4 例中 2 例に、陽性描画を示さない 3 例中 2 例に Au 抗原が検出された。一方、陽性描画を示した 4 例全てが AFP 陽性であるのに比し、陽性描画を示さない例での AFP 陽性例は 1 例にすぎなかった。

更に、 ^{67}Ga -citrate による腫瘍陽性描画の有無と病理組織像との関係、また抗癌剤局所動注治療による腫瘍陽性描画及び各検査成績の変動について述べる。

79. 原発性肝癌と転移性肝癌の鑑別

——特に生理学的欠損部の

コンピュータ処理について——

慈恵会医科大学 放射線科

高橋貞一郎 横井 綱寿 川上 憲司
神 徳市

著者等は原発性肝癌と転移性肝癌の鑑別への approach を各種放射性薬剤により試み、特に ^{75}Se -selenomethionine の有要性については報告して来ている。今回は此等診断の基礎である radioactive colloid scan に認められる生理的欠損部 (hepatic vein, porta hepatis, gallbladder fossa 及び renal impression による warm area) が時に腫瘍等と鑑別困難な場合があるので、同部位の変化をコンピュータ処理を中心として検討し結果を得たので報告する。

〔方法〕 porta hepatis 及び gallbladder fossa には ^{131}I rose bengal 及び ^{131}I BSP scan を施行し scintigraphy と動態をコンピュータ処理を併用して観察した。renal impression には ^{197}Hg chlormerodrin 及び $^{99\text{m}}\text{Tc}$ penicillamine asetazolamide complex による renoscintigraphy を施行し検討した。又 colloid scan による肝 scintigraphy にて同部位のコンピュータ処理を行い此等結果を比較検討した。

〔結果〕 porta hepatis 及び gallbladder fossa の診断は ^{131}I rose bengal が scintigraphy 上は ^{131}I -BSP に比較して鑑別し易いが、scinticamera 集録後 playback し areacall して観察する場合は時間の短縮等の利点が ^{131}I -BSP にも認められた。renal impression に対しては ^{197}Hg chlormerodrin に比して $^{99\text{m}}\text{Tc}$ penicillamine asetazolamide complex による scintigraphy が情報が高かった。colloid scan による肝 scintigraphy よりのコンピュータ処理は上記検査と併用した有要性があることが知られた。